

ラジオドラマ用オリジナルシナリオ

One Shot Story Series

「ハンターバニッシュ」

作・牛

《キャスト紹介》

- 男性客 . . . お喋り上手なプレイボーイ風。
臆病。
- 女性客 . . . 年齢 30 歳前後。
落ち着いて謎めいた雰囲気。
- マスター . . . 女性バーテンダー。

《 舞 台 》

港が近くにあるBAR「サンドリオン」。
店内には常にジャズが流れている。

(PLAY-1)

S E ドアの開閉の音

マスター : いらしゃいませ。
男性客 : いやあ、まいった。よく降るなあ。
マスター : 大丈夫ですか？
男性客 : 少し濡れただけ。
マスター : よろしかったら、これを(タオル)お使い下さい。
男性客 : ありがとう。ああ、ハンターもらえますか。
マスター : かしこまりました。

S E ドリンクを作る音

マスター : どうぞ。
男性客 : どうも・・・(小声で) マスター、マスター・・・
マスター : はい。
男性客 : あそこの女性、待合せかな？
マスター : さあ、どうでしょう。
男性客 : よく来る人？
マスター : 時折、お見えになられますが・・・
男性客 : そのときは、誰かと一緒に？
マスター : さあ、どうでしたでしょう。
男性客 : 全く口が固いんだからマスターは。よし、どうせ今日はもう雨に降られた後だ、ダメでもともと・・・(一つ咳払い、席を立つ様子で) あの一・・・お一人でしょうか？
女性客 : ええ・・・
男性客 : よろしければ、ご一緒してもいいですか？
女性客 : (あっさり) ええ、どうぞ。
男性客 : (意外) え、いいんですか本当に？
女性客 : どうぞ。
男性客 : やった。マスター、すみませんこっちへ。
マスター : かしこまりました。
男性客 : いやあ、てつきり断られると思いました。
女性客 : どうして？
男性客 : その、雰囲気・・・

女性客 : そんなに鼻の高い女に見えまして？
男性客 : とんでもない、その、なんて言うか、近寄り難いほどの美人って言うじゃないですか。
女性客 : いいのよ、私もちょうど話し相手がほしかったところだから。

(PLAY-2)

男性客 : お待合せじゃなかったのですか？
女性客 : いいえ。
男性客 : そうですか。さっきまでは外の雨が嫌だなあって思ってたのに、こうなるとそんなこと全然気にならない。人間って単純ですよ。
女性客 : 雨の取持つ縁ね。
男性客 : (ちょっと嬉しい) そうですよね。縁なんだ、うん。月並みだけど乾杯しませんか？
女性客 : ええ。

S E グラスを合わせる音

女性客 : きれいな色ね、それ何？
男性客 : ハンターです。
女性客 : マスター、私も同じもの作ってくださる。
マスター : かしこまりました。

S E ドリンクを作る音

マスター : お待たせしました。
女性客 : (一口飲み) おいしい。
男性客 : でしょう。
女性客 : 色がいいわ。まるで血の色みたいで。
男性客 : やめてくださいよ。僕は苦手なんですよ、そういうのは。
女性客 : そうなの？
男性客 : ええ。話題を替えましょう。今お一人ですか？
女性客 : ええ。
男性客 : (意外) 結婚されてないんですか？

女性客 : 結婚はしたわ。
男性客 : 離婚ですか？
女性客 : いいえ。
男性客 : じゃ別居？
女性客 : いいえ。
男性客 : 結婚してて離婚でもなく別居でもなく、ご主人と一緒にじゃない。判った、単身赴任。
女性客 : いなくなったのよ。
男性客 : いなくなった。失踪？
女性客 : 殺されたんじゃないかと思うの？

(PLAY-3)

男性客 : ちょっと待ってくださいよ。ご主人なんでしょ？
女性客 : そうよ。
男性客 : それなのに、そんなシャアシャアと殺されたなんて。
女性客 : 主人は会社を幾つか経営してて、その強引な性格に敵は確かに多かったわ。(憎むように) わがままで強引で身勝手。
男性客 : それにしても殺されたなんて。
女性客 : もういなくなってかなりになるわ。
男性客 : . . .
女性客 : 普通で考えたら . . .
男性客 : きっと何かの理由で姿を隠してるだけですよ。
女性客 : あの人はそんな性格じゃないわ。妻の私が一番知ってる。
男性客 : でも、仮にもし最悪の事態だったとしても、何かあるはずでしょう。そんな殺人の完全犯罪なんて小説じゃあるまいし . . .
女性客 : どうして？
男性客 : え？
女性客 : その気になれば出来ないことじゃないわ。
男性客 : 殺人の完全犯罪をですか？
女性客 : そうよ。そんなこと、あなた考えた事ない？
男性客 : 冗談を、そんなこと僕は . . .
女性客 : 死体が無ければ、殺人事件になりようもないわ。
男性客 : 死体が無ければって、死体を消すのですか！？
女性客 : へたに死体を隠したり、バラバラにしても見つければおわ

りでしょ？

男性客 : え、ええ・・・
女性客 : 死体を跡形もなく消せば・・・
男性客 : そ、そんなこと・・・
女性客 : 簡単な事だわ。

(PLAY-4)

男性客 : 簡単な事って、出来るんですか。
女性客 : ディスポーザーって、ご存知かしら？
男性客 : キッチンについてる・・・
女性客 : ええ、生ゴミ粉碎器。今はいいのが出てるのよ。コーラの瓶だって砕いてしまうくらい強力なやつが。
男性客 : やめてくださいよ！
女性客 : 他の方法なら、夫の食品関係の事業部が新たに食品加工用機械を開発してて。その機械はまあ簡単に言えば、巨大な遠心分離器みたいなものなの。
男性客 : 遠心分離器？
女性客 : その中に肉なんかを入れて作動させると、液体と細胞が全く分離するの。
男性客 : ・・・
女性客 : もっと簡単に言うわ。見たところあなたは身長 175 センチ、体重 60 キログラムというところね。
男性客 : あ、ああ・・・
女性客 : あなたぐらいの人間をその機械の中に入れ、その機械を作動させる・・・
男性客 : ウッ！
女性客 : 体重の 60 から 66 パーセントが水分だから、あなただったら約 36 から 40 リットルの水分が出るわ。
男性客 : ・・・
女性客 : 血液量は、体重 1 キロにつき 70 から 100 ミリリットル。だからあなたの血液量は約 4200 から 6000 ミリリットル程ね。そのカクテルグラスだと、80 杯くらい。色もちょうどそんな感じだわ・・・
男性客 : うわッ。
女性客 : 水分を取られた他の細胞はサラサラの粉末状態になるのよ。

男性客 :
女性客 : どうしたの、お顔の色が変よ。

(PLAY-5)

女性客 : おわかりになったでしょ、死体を消すことなんていとも簡単なことだって。
男性客 : う、うん。
女性客 : 液体と粉末になれば、後は海に流すなり、風に飛ばすなりして自然に帰してあげるだけ。
男性客 : そ、そうだね。
女性客 : マスター、もう一杯同じものお願い。とても気に入りましたわ、この
男性客 : ハ、ハンター
女性客 : ええ、そのハンターを。
マスター : かしこまりました。

S E ドリンクを作る音

マスター : どうぞ。
女性客 : ありがとう。うん、おいしいわ。どうしたの、もうお飲みにならないの？
男性客 : いいえ、飲んでますよ。
女性客 : それとね。
男性客 : はい。
女性客 : こんなことご存知かしら。
男性客 : ま、まだあるんですか？
女性客 : 死体を消すのはいいんだけど、ちょっと困ったことが起きるのよ。
男性客 : そりゃあ困るでしょ、いろいろ。
女性客 : 死亡届が出せないのよ。
男性客 : あ、ああ、そうですよね。死体が無けりゃ死亡の確認はできませんよね。ハハハ
女性客 : 失踪した人を死亡と断定するのって、結構時間と手間が掛かるのよ。知ってて？
男性客 : いいえ、知りませんよ。

女性客 : 裁判所から失踪宣告の確定っていう、ややこしい承認がいるの。

男性客 : お詳しいですね。

女性客 : それを邪魔する人がいるの。死んだ主人の顧問弁護士。

(PLAY-6)

男性客 : 弁護士？

女性客 : そう。どこにでもいるじゃない、融通の効かないへんに忠実な男って。

男性客 : え、ええ、そうですね。

女性客 : あなただってそんなとき思わない？

男性客 : え？

女性客 : 消えて無くなればいいのかって。

男性客 : (恐怖の笑い)

女性客 : そうでしょ。あら、ちょっと失礼するけど待っててね。まだお話しの続きはあるから。これもきっと何かの縁よね。そこで待っててよ。すぐ戻るから。(席を立つ)

男性客 : (ガタンと席を立つ) マスター！

マスター : はい。

男性客 : よくそんな澄ました顔してられるね。

マスター : どうかされましたか？

男性客 : どうかじゃないよ、あの女、異常だよ。自分の亭主を殺してるんだ。それで今度は、弁護士を殺そうと僕に話を持ち掛けてる。聞いてて判らないのかい？(ドア付近で) 悪いけど僕は警察には届けない、関わりあつて消されるのはごめんだから。

マスター : まだお飲み物が・・・

男性客 : 悪いことは言わないから、関わりあつちやいけないよ。

S E ドアの開閉の音。

マスター : お客様・・・

女性客 : 飛んで逃げたでしょ。

マスター : はい。

女性客 : あのお客でしょ、ここに来る女性客にやたら声掛ける奴。

前に、マスター困った顔してたから。

マスター : ありがとうございます。

女性客 : あ、もうこんな時間か。そろそろ私も帰ります。本当においしかったわ、ハンター。

マスター : お客様。

女性客 : なに？

マスター : こんどいらっしゃる時は、ぜひ旦那様もご一緒に。

女性客 : そうね。うまく二人とも当直が外れたときに。結構医者同士の共働きって、時間が合わないのよ。

おわり